

歯や口腔、栄養状態の改善、認知症予防についてのメニューもあり、様々な面から高齢者の介護予防に取り組んでいるところです。

また、約8割の方から、教室に通うことで体調や体の動きなどがよくなったとの回答があり、さらに意欲を持って教室に参加していただいております。

教室への参加を通して、運動習慣の構築、バランスよい食習慣、歯や口腔機能の維持、人との関わりや社会活動の増加、そして認知症予防につながり、高齢者ができる限り自立した生活を続けられるよう取り組んでいるところです。また、住民主体の介護予防活動として、地域の100歳体操を行う場所も現在20か所と増えています。

生活支援体制整備事業にて、このような地域の活動がさらに広がるよう、地域の支え合いの大切さについて市民の方にお伝えし、ボランティアなどの活動者の支援を行っております。

議員がおっしゃるとおり、買い物は高齢者のフレイル予防に効果があると考えております。また、買い物は高齢者の生活課題でもあります。

現行の介護予防教室を維持しつつ、高齢者の買い物とフレイル予防につきましては、生活支援協議体にて協議してまいります。

○鈴木富美子議長 8番、竹田陽一議員。

○8番 竹田陽一議員 地震の対応関係が一番心配があるのですが、水道施設耐震化についてもかなり高額な予算が必要だということで回答をいただきました。

今度、国土交通省に移管になるわけですから、私もかなり期待をしています。厚労省では、今までの実績からいうとちょっと不安なところがあったんですが、大変期待をしております。できるだけいい情報をつかんでいただいて、耐震化が進むようお願いをしたいということをお願いを終わります。ありがとうございました。

渡部秀樹議員の質問

○鈴木富美子議長 次に、順位9番、議席番号10番、渡部秀樹議員。

(10番渡部秀樹議員登壇)

○10番 渡部秀樹議員 お疲れさまでございます。21爽風会の渡部秀樹です。よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従って、質問させていただきます。

このたびの質問は大きく2項目ありますので、順次お答えいただきますようよろしくお願いいたします。

1項目めは、観光振興事業関連についてお聞きいたします。

第2期観光振興計画の中で、観光に関わる全ての関係者や市民の連携と協働で観光地域づくりを進め、訪れてみたい、住んでみたいまちになるよう計画を策定するとのくだけりから、この裾野の広い観光産業の推進に総がかりで取り組む強い意思が感じられます。

そこで、今後の観光産業の推進について確認と提案をさせていただきます。

1点目は、観光地の空間形成と視覚に働きかける工夫について提案させていただきます。

観光地域における空間づくりを図る上では、地域の文化、歴史、自然等に根づいた地域ならではの世界観、すなわち観光地域が目指すコンセプトを来訪者に感じてもらうことが重要とされております。さらに、空間形成された観光エリアを来訪者の視覚に働きかける工夫をすることで、そのコンセプトをより強調することができるとされております。

空間形成と視覚に働きかける工夫について取り組んでいる全国的な事例を挙げますと、議長

のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項1の(1)にも載せていただいておりますが、大正ロマンを感じさせるノスタルジックな雰囲気に整えられた温泉街の山形県銀山温泉、仏閣を中心に時代劇的な町並み、どこを見ても木彫刻が飾られている富山県、木彫刻のまち井波、宮城県登米市の明治維新から昭和初期の雰囲気をコンセプトにしているみやぎの明治村の裏通りさえも整っている登米の町並みなどがあります。

地域の文化、歴史、自然等に根づいた地域ならではの世界観を感じさせるコンセプトを持っていることはもちろんのこと、そのメインとなる観光資源の周辺の構造物が視覚的に違和感を覚えることのないような配色や形状に整えるよう工夫がされております。

観光地に行くと、コンビニエンスストアやガソリンスタンドなどの配色が景観配慮色という茶系統を基調とした配色で塗装されていたり、看板の高さが通常よりも低く設定されているのを目にすることがあると思いますが、これも観光資源周辺の構造物などが視覚的に違和感を覚えることのないようにするための工夫です。

また、歴史的建造物や自然を生かした観光エリアの公共施設は、コンクリート製であっても、配色に気を配り、その地域の住宅の新築時やリノベーションの際に、外壁や屋根の配色についてお願いする自治体もあります。

このように、観光産業を推進する上で観光地の空間形成と視覚に働きかける工夫をすることは重要なことと思いますので、提案させていただきます。

最初に、重要文化的景観などの観光エリアを生かすための周辺整備について提案させていただきます。

この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項1の(1)の①もご覧になりながらお聞きください。

観光地の空間形成と視覚に働きかける工夫について考える上で、観光資源周辺の構造物などは景観に配慮し、視覚的に違和感を覚えることのないような配色や形状に整えることは大切なことだと思います。

現在、我が国の観光地では、景観配慮色に塗装されたガードレールやカーブミラーは多く、観光客は、この塗装されたガードレールやカーブミラーを見かけると、今自分は観光地に来ているんだなと改めて感じる方も多いようであります。

そこで、重要文化的景観などの観光エリアを生かすため、その観光資源周辺のガードレールやカーブミラー、消雪ポンプ制御盤のボックスなどを景観に配慮し、少しずつでも茶系統の色に塗装することについて提案させていただきます。市長のお考えをお聞かせください。

次に、観光客の視覚に働きかける観光看板等の設置について提案させていただきます。

この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項1の(1)の②もご覧になりながらお聞きください。

観光地には様々なデザインの観光看板や案内板がありますが、その多くがとても親切に位置情報や近隣の観光資源の写真などを詳細に載せています。しかし、観光資源の写真が小さくなり、観光客の視覚に働きかけるには少し弱く感じることがあります。

隣県の福島駅前にある駐車場のフェンスには、福島県内の様々な観光資源の写真情報を印刷した数十メートルに及ぶ看板が設置され、とても目を引きます。これは、少しやり過ぎ感もあり、重要文化的景観を持つ本市としては、このタイプの看板を設置する箇所は限られるかと思いますが、駅前や道の駅付近、そして、少し郊外の他自治体との境などに設置できれば、観光客の視覚に働きかけることができるかもしれません。

また、同じく福島駅前の歩道上に複数ある無

散水消雪制御盤のボックスには、福島県内のお祭りや温泉などの観光資源情報が大きな写真つきでプリントされており、道行く人の目を引いておりました。

本市の場合、駅付近や大通りなどの観光客が往来する消雪ポンプ制御盤のボックスなどが設置の対象となるかと思いますが、この件につきましても併せて検討していただきたいと思えます。市長のお考えをお聞かせください。

次に、観光エリアへのご当地限定顔出しパネルの設置について提案させていただきます。

この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項1の(1)の③もご覧になりながらお聞きください。

日本中の観光地にあり、観光客に親しまれているものとして、過去にご当地限定プリントクラブ、ご当地プリクラやご当地限定カプセルトイ、ご当地ガチャなどを提案させていただきましたが、このたびは、ご当地限定顔出しパネルについて提案させていただきます。

観光地の空間形成と視覚に働きかける工夫を考える上で、全国の観光地にあり、観光客が楽しみ、その出来栄をSNSに投稿している代表的なものにご当地限定顔出しパネルがあります。

この顔出しパネルのよいところは、顔出しパネルが設置してあることで、1つ、そこが観光地であることが観光客に容易に伝わる、2つ、ご当地が売りにしている観光資源が観光客に伝わる、3つ、顔出しパネルの写真は高確率でSNSに投稿されるため、その楽しそうな雰囲気とともにご当地情報が拡散され、集客につながる可能性がある、4つ、複数の種類を設置することで、さらなるご当地情報の拡散につながる、5つ、制作費が意外に安価であるなど、よいところが上げられます。

そこで、複数の観光エリアへご当地限定顔出しパネルの設置について提案させていただきます

す。観光文化交流課観光交流担当課長のお考えをお聞かせください。

2点目は、観光客と市民が共に楽しめる観光まちづくりについて提案させていただきます。

観光産業を推進する上で、来訪いただく観光客とお迎えする側の地元の方々との接点や交流は欠かせないことと思えます。

観光の示す言葉の一つに、人に会い、人を訪ねるという言葉があり、日常の何げない風景やまちの匂い、暮らす人と訪れる人の顔と顔を突き合わせた交流といった、人との触れ合いやつながりを重視する観光のスタイルは、高度経済成長期終了以降、徐々に息を潜めてしまいましたが、大型観光旅行ブームが衰退した頃から、観光のTPO、つまり観光に旅立つ動機づけとして息を吹き返しており、コロナ禍による社会の混乱が落ち着いたことから、強まるのではないかと思います。

お盆、正月などの長期休暇に来訪する親類縁者はもちろんのこと、本市に観光のために訪れた一般的な観光客、本市のイベントへの参加者やイベント参加後にまちに繰り出す観光客、本市に仕事のため来訪しているビジネス観光の方々などを含めると、観光客と市民が接する機会は多く、飲食店の店内や喫煙をしながらタクシー待ちをしているときに何げなく会話をしていることもあるかと思います。

来訪いただいた観光客と迎える側の市民に少しでも楽しく、気持ちよく余暇を過ごしていただきたいとの思いから、提案させていただきます。

最初に、地酒を通じた観光客と市民の交流を目的とした地酒の試飲について提案させていただきます。

この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項1の(2)の①もご覧になりながらお聞きください。

本市には造り酒屋がありますので、飲食店の

店内やイベント会場で観光客に地酒の紹介ができ、居合わせた市民と観光客に地酒を通して交流していただきたいと思ひ様々な情報を集めていると、居酒屋やショットバー、スナックなどの飲食店の店内で地酒の有料試飲企画、イベント会場での酒蔵協賛の試飲コーナー、仙台駅で地酒が1杯100円で試飲できる地酒自動販売機の設置などを行っている自治体や団体の情報が目につきました。

少し支援は必要かもしれませんが、本市でも工夫次第で始められるのではないかと思ひ、提案いたします。

飲食店の店内やイベント会場で地酒の試飲企画ができるよう、何らかの補助はできないでしょうか。期間や本数などを限定した、格安の有料試飲企画などができれば、観光客と居合わせた市民との間でも会話が弾むのではないのでしょうか。

また、仙台駅のようなワンコイン地酒自動販売機の設置について検討はできないでしょうか。市長のお考えをお聞かせください。

次に、観光客だけではなく、市民にも利便性のある特定屋外喫煙場所の設置について提案させていただきます。

この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項1の(2)の②もご覧になりながらお聞きください。

本市には、中長期の出張や会議などのビジネス観光を含み、多くの観光客が訪れておりますが、来訪された方に、市内で喫煙できる場所を聞かれることが度々あります。もちろん全国的に言えることなのですが、近年、市内の喫煙所は少なくなり、来訪された方は喫煙所を探すのに苦労してようでありました。

そこで、会議や会合で頻繁に使われているタスや駅付近に、特定屋外喫煙所の基準を守り、しっかりと受動喫煙対策の施された喫煙所の設置について提案いたします。

また、飲食店が集中するまちなかに受動喫煙対策の施された喫煙所と公衆トイレや、雨がしのげ、ベンチと自動販売機のある休憩所のような施設があれば、観光客だけではなく、市民にとっても利便性があり、さらに、来訪された観光客と迎える側の市民との交流にもつながるのではないのでしょうか、併せて提案させていただきます。市長のお考えをお聞かせください。

2項目めは、教育行政の現状と課題等についてお聞きいたします。

GIGAスクール構想やインクルーシブ教育、部活動の地域移行、スクール・コミュニティなど、日本の学校教育が大きな転換期を迎えており、社会問題となってる少子化の中で、子供が健やかに育つ環境づくりを目指す本市の教育行政の現状と今後の課題などについてお聞きいたします。

1点目は、スクール・コミュニティの取組などについてお聞きいたします。

新しい日本の学校教育の柱の一つにスクール・コミュニティがあり、各自治体では、既に取組を始めてると思ひます。しかし、インターネットで検索すると、自治体などの成果報告や定義などは目につきますが、スクール・コミュニティの項目を検索してるにもかかわらず、文部科学省のコミュニティ・スクール、学校運営協議会制度のほうが上位に検索されるなど、国の考え方の全容さえつかめないというのが現状であります。

本市の第3期教育振興計画には、スクール・コミュニティの推進について示されておりますので、本市としてどのように取り組んでいくのかお聞かせください。

スクール・コミュニティをどのように捉え、コミュニティ・スクールとどのようにすみ分けし、事業を推進していくのか、そして、スクール・コミュニティを推進することにより期待される効果や、そのための課題について、教育長

にお聞きいたします。

2点目は、キャリア教育の取組などについてお聞きいたします。

さきの質問と同様に、新しい日本の学校教育の柱の一つにキャリア教育があり、文部科学省のホームページにもキャリア教育のページはありますが、情報が非常に少なく、全容がつかみ切れません。

ホームページに掲載されているのは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ねがキャリアであるとされていますという一文と、一人一人の社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育がキャリア教育ですの2つの文章しかなく、元からあるコミュニティ・スクールなどの項目に比べ情報が少なく、内容が分かりにくいと感じております。

そこで、本市のキャリア教育の進め方などについてお聞きいたします。

キャリア教育について、具体的にどのように取り組むのでしょうか。そして、キャリア教育を推進することにより期待される効果や、そのための課題について、教育長にお聞きいたします。

事業を推進する上で感じていることや子供たちへの望みや願いなどもお聞かせいただければ幸いです。壇上からの質問は以上になります。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部秀樹議員からは、大きく2項目にわたってご質問、ご提言いただいておりますが、私のほうからは、1点目の観光振興事業関連について、2項目、5点ほどありますけれども、4点についてお答えを申し上げます。

まず、渡部秀樹議員からは、常々観光についての様々なご提言やら、アイデアも含めて、たくさんいただいておりますことに感謝申し上げ

たいと思います。

議員のほうからは、第2期の観光振興計画の中で、観光に関わる全ての関係者や市民の連携と協働で観光地域づくりを進め、訪れてみたい、住んでみたいまちになるよう計画を策定するとのくんだりから、この裾野の広い観光産業の推進に総がかりで取り組む強い意思が感じられるということで、今後の観光産業の推進についてというこでの立場からのご提言でございます。

(1)は観光地の空間形成と視覚に働きかける工夫についてということで、まず1点目が、重要文化的景観などの観光エリアを生かすための周辺整備についてということで、具体的なご提案、ご提言をいただきました。

ここの重要文化的景観などの観光エリアという考え方なんですけど、令和6年度に基本的な計画を策定し、当然そのときには、重要文化的景観でありますから、文化庁の指定でありますので、そういったところを十分に意識しながら、まずは、十日町、大町、高野町、横町辺り、それから一方で、あら町と館町北ですか、その辺の皆様と、まち、町内会の皆様と意見交換しなきゃいけない、あと、重要文化的景観を構成する個人所有のそういった貴重な建築物についてお持ちの方々との意見交換もしなきゃいけない、あわせて、文教の杜がメインになりますので、財団法人の文教の杜とも意見交換しなきゃいけない、それから、宮・小桜街区まちづくり協議会の皆様との意見交換もしなきゃいけない、そこを基本として、あとは観光関係とか商店街の皆様と意見交換をしながら進めていかなきゃいけないと思っております。

そんな中で、昨日もございましたけれども、勝見議員からいただいた芸術文化ということで、そのまちづくりについても意識しなきゃいけませんので、私は、もちろん観光なんですけど、観光、文化、交流というまちづくり、地域づくりのその考え方で行かなければいけないと思っ

ておまして、相当調整しないと難しいと。

あと、今、建設課のほうと協議っていいですか、いろいろ意見交換してるのは、まずは、歩いて楽しむまち、ウォークアブルシティの、あそここのエリアを選定受けましょうと。それから、「くるんと」などを行った国土交通省の、これも国土交通省ですが、都市再編集中支援事業の採択を受けてやると。ただし、基本、箱物についてはなかなか金額もかさむということあって、面的整備をしようということ今のところ考えてるところなんです。

面的整備というのは、今回ご提案いただいた、まさに景観を維持するための、まずは、電柱の地下埋設、それから、歩いて楽しむわけですから、できるところは石畳のほうがいいだろうと。石畳も、あら町のほうはちょっと失敗したんですが、あれは全面したかったんですよ、実は。全面にすると全く問題ないんですが、アスファルトと石畳の間の接点のところはどうしても傷むんですね。ですから、もうある程度時間もたちましたので取り払いましたけども、あれ、全面ですれば何の問題もないと。ただ、当時は、議会のほうからお認めいただけなかったんですね。道の駅も認めてもらえませんでした。そんなことで、何回も何回も否決されたんですが、まずは、何とか今に至ってるということでございますけれども、そういった意味では、議員のご提案は全くそのとおりであります、そういったことを意識しながら、最終的には、景観ですから、例えば板塀、あるいは蔵がたくさんあって、あと、長沼酒造さんなんかあったり、丸大扇屋あったり、様々な一つ一つの貴重な建物があって、それにマッチするような景観ということで、まさにそのとおりだと思います。

したがって、これは国土交通省の景観に配慮した道路附属物等ガイドラインでは、景観的配慮の基本理念として、道路防護柵、ガードレールや道路反射鏡、カーブミラー、消雪ポンプ制

御盤のボックスも含めた、道路附属物等において、地域の景観特性に応じた基本色を特定し、形状や色彩を検討することが基本であるとされております。また、長井市の景観条例に基づく景観計画では、本市全体を景観計画区域とし、届出対象行為や景観形成基準により、電気供給等の工作物などの建設に一定の制限をかけているということであり、このうち、景観重要地区の一つとして、宮区域、小出区域、最上川区域を合わせた区域を特に重要文化的景観区域として指定し、積極的な景観づくりを進めることとしているということでございます。

国のガイドラインにおける道路附属物等の色彩については、我が国の伝統的な町並みや現代の建築の外壁、土や岩、樹木の幹等の自然の色彩を踏まえ、色彩的な融和や調和の観点から、これは議員からもありましたように、ダークグレー、ダークブラウン、オフグレー、グレーベージュの4色を背景に配慮する際の基本的な色彩とされており、現在、全国的にその基準に沿った景観に配慮した色彩、形状の道路附属物等が設置、更新、状況に応じて集約化、撤去されているようでございます。

議員からは、茶系統に塗装というようなご提案でございますが、既製品でも、茶系統を含む4色のものがございますので、長井市の重要文化的景観などの観光エリアやその他の観光資源周辺の景観区域の状況に応じて、国のガイドラインに準じた周辺整備を行ってまいります、基本は、そのときにそこに住んでいらっしゃる方にもご協力いただかなければいけないので、我々が勝手にできるものではなと。

それから、宮・小桜街区のまちづくり協議会の皆様は、今の町並みを生かしてにぎわいをつくるということが目的で結成された組織でありますので、私どもとしても、文教の杜という、長井市の一番、舟運文化で栄えた区域、エリアでございますので、そのところは観光だけで

なくて、重要な建築物、歴史的なものです、それと、長井市の芸術文化の拠点でありますので、それを踏まえた上での景観計画になるだろうと思っております。

2点目の観光客の視覚に働きかける看板の設置についてということですが、市内を案内する観光看板に関するご提言をいただきました。

このような看板は、人が集まる道の駅やフラワー長井線長井駅が効果的で、現在も案内看板はありますが、視覚に訴えるという点では改善の余地があるかもしれません。

ただ、今まではフットパスの看板とかがメインでした。これからどういうふうな看板にするかなんですが、長井市の重要文化的景観と町並みにマッチングするようなサイン計画、全体的なサイン計画を立てなきゃいけないだろうと。それはもうほぼ渡部秀樹議員がご提案いただいているようなイメージに近いんです。

ただし、こちらについても全体的な統一性が必要だろうと思っております。

宮の文教の杜周辺と、それから小出のあら町周辺、真ん中の駅前通りとか、本町はもう新しい町並みですので、そこのマッチングが難しいなと思っておりますが、その周りにはいわゆる長井市の象徴のフットパスがあるわけですから、そして、宮のほうにはあやめ公園、小出はつつじ公園でありますので、あと、河川には宮の藩の船着場があり、小出には地元の民間の小出の船着場があるということで、こういった歴史性を踏まえながら考えていく必要があると思っております。

道の駅川のみなと長井の東側の自動販売機など、長井市の写真をふんだんに用いたものとなっております、大変目立って、PR効果が高いと感じておりますが、これはいろいろ提案いただいたんですが、そういう道の駅みたいないろんな人の、結局入り口の一つですね、というものではないんですが、まちなかにはどうい

ふうにしたらいいか、この辺はいろいろ議論して決めなきゃいけないのかなと思っております。

竹田観光交流担当課長からも答弁あるかと思っておりますが、非常に面白い、ちょっと少しちやめっ気あるのも必要ですし、あんまり堅いのも駄目かなとは思いますが、その辺のところは皆様の意見をお聞きしながら考えていかなきゃいけないのかなと思っております。

3点目ですが、これは、(2)の観光客と市民が共に楽しめる観光まちづくりについてということで、渡部秀樹議員からは、地酒の試飲できる、そういうお店とか自動販売機とか検討してはどうかというご提案であります。

これ、ごもつともで、地酒に関する提案をいただきましたけれども、市外の方と酒宴の席などでも長井市の地酒は評判もよく、お土産に購入いただけることもよくあるようでございます。ぜひ多くの方に知っていただきたいと思っております、この地酒の試飲企画ということではありますが、市内で行われるイベント時などは、酒販組合さんや五蔵会さんなど、関係団体とも検討してみたいと思います。

補助金などの対象とすることは現時点では難しいと思っておりますけれども、機会の創出など、協議していただける部分はあるかなと考えております。

基本は、いろんな考え方あるんですが、こういったのは市が直接補助するとかじゃなくて、例えば酒販組合さんでそういう事業をやりたいということに対して、観光協会のほうで応援するとか、あるいはやまがたアルカディア観光局のほうで応援するのがいいのではないのかなとは思っております。どちらかという、市の行政の観光は、本当裏方で支援する。表は、市民の皆様、民間の皆様を表に出すという考え方ですので、できるだけ、私の考えはですよ、観光は、税金でやってるという形じゃなくて、民間が自主的にこういうことをやってるという見せ方が

私は必要だと思っておりますので、そういった意味では、観光協会にいろんな委託をしていますから、その委託事業の中にそういうアイデアとか、酒販組合さんとか、いろいろやるといったところをお願いしてやっていくと。

観光協会も現在は地場産業振興センターの中に、組織的にも一体になっておりますので、しっかりした組織なので大丈夫だと思っておりますし、やまがたアルカディア観光局もいずれ自走するわけですが、そのメインは、長井市が中心になっていくということで、長井市がどんどん進めていくと、周りにもいい影響があると思っておりますので、これからは、5年目、6年目からは、まずはそれぞれのまちで頑張っていて、ただ、DMOの認定もいただいていますから、観光庁とか、いろんな補助を受けるにはすごく有利なわけですね。ですから、そういう優位性は2市3町集まっているからでありまして、そういったところを各市町にも理解いただき、まずは自前で頑張れるような、そういったことで観光協会とアルカディア観光局を応援していかないといけないのかなと思っておりますので、議員おっしゃるように、人に出会い、人を訪ねるといった観点で、観光局のツアー商品なども大事にしてるところでございまして、より深い交流人口、関係人口につながるような、長井市のファンづくり、リピーターづくりには欠かせないということで、自動販売機も大変面白くていいなと思っておりますので、ぜひこの辺のところは担当課のほうといろいろ協議して、どういう方法が一番いいのか考えながら、来年は市制施行70周年ですから、その辺あたりから少しずつやっていくべきかなと思っております。

あと、私への質問の最後でございますが、4点目が特定屋外喫煙場所の設置についてということで、大変ありがたい、すばらしいご提言もいただきました。

これ、私が何も喫煙者だということだからだ

けじゃなくて、どこにもないと本当困りますし、陰に隠れてポイ捨てなどもせざるを得ない、そういう状況をつくってはいけないと。ダイバーシティというのはいろんな立場の人を考えて、ただし、喫煙については、受動喫煙で、自分以外の人に望まぬ健康被害を与えてはいけませんので、そこはしっかりと対応して、ただし、ある程度場所が必要だと私も思っております。

そういった意味では、健康増進法で定める第一種施設、学校や病院、行政機関の庁舎など、敷地内禁煙とされてる場所に設置する場合は、喫煙所がこれに当たるということで、愛煙家の利便性と受動喫煙防止の観点から、屋外喫煙所の設備として、観光交流センターには、今設置しておりますけれども、結構観光客の方はご利用されています、あとは、道の駅をご利用した方々ね。

常設の喫煙所設置となると費用もかかりますし、利用頻度についても考えなければなりません、きれいな喫煙スペースはJ Tも提案しておりますので、検討しなきゃいけないと思っております。

ただ、祭り等で多くのお客様が来場される場所では、分煙も必要な対応であり、何よりポイ捨て抑制の効果がありますので、喫煙スペースを設けることはもちろん、喫煙ブースのレンタルのなども今後検討しなければいけない課題だと思っております。

私のほうからは以上でございます。ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 私には、スクール・コミュニティのことについて2つ、それから、キャリア教育について2つご質問をいただきました。

いずれもなかなか保護者のレベルでもよく分かってないということで、まず、そういうことについて説明をなさいということだと思いません。確かにまだまだ認知されてない取組で一緒に

就いたばかりでございますので、いい機会ですので、ご説明をさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

スクール・コミュニティという言葉も当然耳慣れないわけですが、一言で言うと、長井市では、学校、そして子供を縁としたつながりと定義をしております。

これ、三鷹市の教育委員会、三鷹市の中で定義をされたものを長井市もそのままいただいたものです。

ただ、このことについて、山形県では酒田市がこのスクール・コミュニティというのを使っておりますが、それぞれ事情が違います。三鷹市の場合は、非常に今人口が増えていて、そもそもコミュニティーそのものが非常になくなってきたので、これを何とか学校を真ん中に置いたときに、新たなコミュニティーがつくられるのではないかということ。それから、酒田市の場合は、地域がどんどん集約していくので、そのところで、市長部局を中心として、いわゆる学校を中心、校区の中心になりますから、それを中心としてつくっていかうということであります。

長井市の場合はちょっとそれとは逆かなと思ひます。ご存知のように、長井市では小さな拠点づくり、これを推進しております。その小さな拠点となる施設の中に、学校、コミュニティセンター、児童センター等が位置づけられているところだす。したがって、それぞれの地域の中そのコミュニティーをより強くする、その拠点づくり、まちづくりの一つとしてこの位置づけがあるということでご理解いただければありがたいと思ひます。

じゃあ、コミュニティ・スクールと何が違うのだというご質問もありました。

コミュニティ・スクールの場合、今も取り組んでいるわけですが、いわゆる地域の大人が授業を手伝ったりですとか、地域学習の先生にな

ったりという関わり、これが一番のイメージだと思ひます。

ただ、今の状況を考えると、こういったことではなくて、小さな拠点づくりを推進していくという視点からの発想の転換が必要であると考えております。今までは学校課題の解決に地域の力を得るという一方通行の考え方でありましたけども、そうではなくて、子供を真ん中にして関わることで、地域の課題解決も同時に進む、そういった地域も学校もウィン・ウィンの関係が新たに構築できる、そういうコミュニティーができるということ、これが一番の狙いであります。そういう意味では、学校にとっても地域にとっても、特に長井市にとっても、人づくり、地域づくりの取組は非常に大事になります。

一言で言うと、スクール・コミュニティは地域づくり、人づくりであると、コミュニティ・スクールは学校づくりである、そういうふうな分け方をしているところでありますが、今後ともいろいろなところで説明をしていかなければいけないなと思っております。

スクール・コミュニティは、地域の新しいコミュニティーをつくりながら、子供も大人も地域もとにかく元気になる、そういった地域の拠点の創出だと捉えて進めていきたいと思ひます。

なお、将来的には、学校施設とコミュニティ施設等の一体化に向けた検討、いわゆるそういったハードの観点からの推進が必要だと思ひます。中長期的な視点の中で、学校、地域、行政が地域の未来イメージを本当にお互いに共有しながら、誰がどんなことができるか、そういったものを話し合いながら進めていかなければいけないと思ひます。今、他機関と少しずつ話合いも進めているところでありますが、まだまだ始まったばかりですので、様々な点でご理解いただくことになると思ひます。

さて、この期待される効果でありますけども、一番は、日常的に子供と地域の大人の関わりが

増えるということかなと思います。

今そういう意味で、各学校でも学校施設の活用のハードルを非常に下げないように校長でも努力をしているところです。例えば、今現状から考えたときに、今学校では冷暖房完備されているわけですが、この体育館を活用して、地域の方が軽運動の活動を実施するというのを考えると、この中で、子供にとっては大人が見える、大人にとっては子供が見える、そのような関係の構築が出てくるのだらうと思います。さらに、一緒に運動する。じゃあ、体育の時間一緒に運動するかというのは十分可能なんだと思います。

そういったことを含めながら、とにかく大人、地域と子供たちの関わりを増やしていく、それも無理なく進めていくというのが一番大事なことかなと思います。地域にとっては、子供を真ん中に置いて、お年寄りも元気になる、子供たちは大人の力を借りて、さらに自分の理解を深めるということなのだろうなと思っているところです。これがまず一つ、大きなメリットではあります。

デメリットというか、これからの課題は、これをどうやって理解を深めて進めていくかという合意形成だと思います。一つは、地域の中の合意形成があります。それから、先ほどお話ししたように、行政の中での各課の合意形成もあります。それらを含めながら、今子供たちもどんどん少なくなっておりますし、施設の長寿命化等を考えると、そんなにゆっくりゆっくり考えていくものでもないだろうということ、ある意味では危機感を持って進めていかなければいけないなと思っております。

次に、キャリア教育についてお話をしたいと思います。

キャリア教育については、第3期の教育振興計画において、夢や目標に向かって挑戦し、その実現を目指す子供たちが必要な資質や能力を身につけていくために、体系的、系統的なキャ

リア教育を各校の教育課程の中に位置づけながら、一人一人が自分らしい生き方を実現していくことを目指していますが、今大事ななのは、学校で閉じないということだと思います。いかに地域も一緒になって子供たちの生き方、将来に向けての生き方をイメージ化させるということでもあります。

そういう意味では、長井市は非常に先進的な取組をしておりますので、この活動の一端を紹介させていただきたいと思います。

例えば旧長井小学校第一校舎で展開されている、先ほど、市長からもありましたが、いわゆる小中高までの連続性のある起業家体験のワークショップ、それから、小学生を対象としたこどものまち、それから、今年度から新たに取り組んでおりますが、中学生のキャリアフェスティバル、それから、長井工業高校による課題研究発表会、これには、今年から長井南・北中学校の2年生が参観して、聞いております。また、DXコンテストへの挑戦と学校の外での個々の興味と能力を伸ばす、いわゆるサードプレイスの取組だと思います。

さらに、これはぜひPRしておきたいと思っているのですが、企業からの取組として、長井市キャリア教育研究会が中心となって、各企業にカードを作ってもらって、それぞれ渡しております。ご覧になった方もいらっしゃるでしょうか。渡部正之議員のところの会社は、これ作っていただきましたが、QRコードで読み取ると、そこから動画等があって、スマホなんかで挨拶ですとか、それから企業の取組なんかも見ることができます。既に21社の協賛を得て、子供たちには配付しているところです。

今話しましたように、こういった地域総ぐるみで、関係総ぐるみで取り組む、そんなキャリア教育をこれからさらに推進していくことが、先ほどのいわゆるスクール・コミュニティとも連動するものだなと思っております。まだまだ

PR不足でありますので、ぜひPRしていただきながら、また、ご理解いただきたいと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。

○鈴木富美子議長 竹田祐子観光交流担当課長。

○竹田祐子観光文化交流課観光交流担当課長 私
のほうからは、問1の観光地振興事業関連についての(1)③の観光エリアへのご当地限定顔出しパネル設置についてという部分についてお答えさせていただきます。

顔出しパネルの設置というご提案をいただきまして、ちょっとこちらでも考えてみたところなんですけども、顔出しパネルを設置する場合には、写ってみたいくなる、顔を出してみたいくなるようなキャラクターですとか、シチュエーションがかなり重要だと思われまます。

長井市においては、現在、けん玉広場SPiKeにけん玉顔出しパネルというものを置いておりまして、長井市のけん玉広場に来たよという記念になっていると思っております。

このほか、長井市には、雪ん子ちゃんですとか、アヤメをイメージしたあや姫など、お子さん向けのご当地キャラクターなどもありますので、観光戦略として、いろんな施設と、あと観光協会など、そういったところと相談していきたいなと思っております。

なお、今回ご紹介いただいているアクティビティ関係のものでございますけれども、こちらは体験型のものになっておりますので、パネルではなく、ぜひ実際に体験いただいた写真やコメントをリアルなもので発信いただくことに意味があるなと感じたところがございます。

○鈴木富美子議長 10番、渡部秀樹議員。

○10番 渡部秀樹議員 様々答弁いただきました。

まず、観光のほうなんですけど、整えていくということはすごく大事なことで、日本で整いがあるところで上げてしまうと、京都とか浅草とか、そうなるんですけど、都市景観と

文化的な景観、その融合というところがすごく上手になされているなど感じます。

極端な例だと、東京の摩天楼の、曲がると急に浅草の雷門があるわけですね。それがなぜか景観にマッチして、浅草の雷門は新宿って書いてるんですね。かつて富豪の方が新宿を宿場として興した頃、スポンサーとして新宿のCMのために雷門につけたという小ばなしが昔、東京都内で聞いたことあるんですけど、それが高層ビルにマッチするわけですね。それは何かしらあるぞという雰囲気そのまが醸し出しているのではないかなというのは、すごく若い頃感じましたね。

その後、空間形成という言葉だったり、拠点的な観光地とその隙間の、どのように埋めていくかという、学術的に勉強したことがあったんですけど、その中で、整えているんですね。余計な色がなくなっていたり、逆に必要な色を足していたりという形で空間形成がなされていると。

市長からありました無電柱化ですか、電柱を埋め込むという、かなり費用もかかる場所にありますけど、かつての日本の路地を曲がったときに、電柱がなかった風景というのが明治、大正にあるわけなんですけど、その時代の雰囲気を色濃く残したエリアにとっては、電柱があるかないかというのは非常に大きくて、写真を白黒で撮ったときに、電柱がないだけで、いつの時代の建物か分からなくなる。それが物すごい効果だと思うんですよ。まして、SNSとかで拡散できる時代ですね、物すごくそれが力を発揮してしまうんですね。

日本中の観光地を回ったときに、そのような整え方、そして観光地の付近にありますけど、一般的な住宅の壁の色なんかも同じくお願いして、何十年かけて、少しずつ色を、それまでピンクだったところがダークグレーですとか、茶色ですとか、何かアイボリーな色だったり、

海沿いだと白だったりするわけなんですけど、そういうご協力をいただくということはすごく大事なことだと、今、市長の話聞きながら思ってる所でした。

無電柱化、一番かかる所かと思うんですけども、実際、目算として、市長、幾らぐらいそこに予算が充てられるとお思いですか。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 先ほどちょっとお話ししましたが、都市再生整備計画事業の中の都市構造再編集集中支援事業って、5割の補助で面的整備をするんですね。「くるんと」を造ったり、あるいは病院とか、今年までの都市構造再編集集中支援事業は、すみれ学園とか、箱物が結構あったわけですね、あと道路とか。次期の計画については、基本的に箱物、大きいものはもうしないで、むしろ面的整備で、歩いて楽しめる、あとは、空き店舗、空き家をうまく活用して、それで人がいろいろそこを訪れて食事をしたり、美術館として見たり、あるいは買い物したりとか、そういうエリアにしよう。そのいわゆるその景観のイメージは重要文化的景観ですから、江戸時代末期から明治の初頭あたりのイメージで、文教の柱を中心としたランドスケープという考え方で、それにマッチするような景観。

あとは、電柱の地下埋設は、これ、防災にもなるんですね。駅前通りも、あと本町通りも電柱地下埋設してもらいました。駅前通りはこれからするということで、駅前通りもラウンドアバウトとかするんですが、ラウンドアバウトも電柱要らないわけですよ。ですから、非常に景観的にはいいと。高野町とか、大町とか、十日町とか、横町の皆さんとあら町の皆さんはどういうふうにお考えになるか、その辺の考え方も尊重しなきゃいけませんし、協力いただかないと、いい景観はつくれませんので、そんなことも含めて、いろいろ考えていきたいと思っておりますので、ぜひ秀樹議員からも何かいい提案ござい

ましたらよろしくお願ひしたいと思います。

○鈴木富美子議長 10番、渡部秀樹議員。

○10番 渡部秀樹議員 私もいろんなところで学びながら、提案できることは提案していきたいと思っております。

時間もあれなので、じゃあ、教育長のほうに、スクール・コミュニティとコミュニティ・スクールの違いと。

どうしても言葉遊び的に世に出てきてしまったような言葉で、誤解を招くというのが、まるっきり視点が違って、そして、本市が向かう先も違うというのが今明確に分かりました。

どうしても向かう先を想定しないで事業をしていくと、何か違うことになるというのは昔からあって、教育行政という中で、そうやってしまった行政の姿を多々見てきております。長井市はそんなことはないわけなんですけども、進んでいっていただきたいと思う次第であります。

キャリア教育に関しては、国の示し方も、物すごく申し訳ない言葉で言うと適当で、だったら載せないほうがいいんじゃないかと、たったの2つの文章です。あれで仕事をなされている地方自治体の教育行政に関わる皆様、大変だなと思っております。

ただし、長井市にとってよかったのは、元から少しエッセンスを持っていたということと、長井市自身がものづくりのまちで、その技術というものを大切にしているまちだったということも大きいかなと思います。ものづくり、道路もそうですし、機械のパーツもそうですし、もちろん農業もそうです。

なので、そういう元から積み上げてきたものを子供たちに当たり前のようにあるんだよと教えていくのが教育の形かなと思うんですけども、教育長、どう思われますか。

○鈴木富美子議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 今お示しいただいたことは非

常に大事です。例えば中学校の修学旅行で、大田区で自分たちのものをプレゼンテーションして、長井のものをアピールしてくるわけですが、あれはまさに子供たちの中では、その人のところに行って、こだわりを聞いて、そのこだわりの中で出来上がったものをプレゼンしてくる。これ、まさにキャリア教育なんです。

今回、羽田のイノベーションシティに行くわけですが、今学校では、ただ羽田を見てくるのではなくて、長井のものづくりをきちっと調べて、その中で重ね合わせながら、自分たちのことも見詰め直し、これからの職業について考えていきたいという学校の非常に強い思いもあります。

そのようなことを含めながら、長井の伝統をうまくコラボさせるのがキャリア教育だと思いますし、そういうふうなものを長井は大事にしてるところだと自負をしておりますので、一層進めていきたいと思います。

○鈴木富美子議長 10番、渡部秀樹議員。

○10番 渡部秀樹議員 ぜひ押し進めていただきたいと思う次第であります。

毎度ながら、私この両面カラーのものを作らせていただいているんですけど、これ、会場全体、議場全体でみんなで見てほしいというところなんです。これも空間形成というところなんです。視覚的效果で意思を統一、意識を統一してほしいというところなんです。

時間がないのでさっと説明すると、銀山温泉なんか見ると、電柱ないじゃないですか。これ、頑張って、裏、陰、見えないところに隠してます。

そして、右手側にある新築の建物ですね。これも景観を損ねないように、新築であることは分かるんですけど、その周りの時代にマッチしたような建物の造りになっていて、中のぞくと、エレベーターがどかんと動いてるんですけど、物すごくこういうところがしっかりしているな

と思うわけです。

市長からも少しあったんですけど、真ん中の写真の井波の電灯なんですね。そこに小さいマークが全部ついてるんですよ。そこ、その通りに合わせたマークがついてまして、その統一性も、こういうところしたほうがいいですよという市長の、多分言葉かなと思ってるんですけど、こういうことが大事だと。

あと、観光地の裏になってく登米の町並みなんですけど、ここ、観光地の真裏なんですよ。なのにはほぼ観光地と変わらないグレードを保っているんですね。この辺が、時間かかってますから。土地が軟らかくて開発できなかったという話も実はあるんです、登米のまちの中に関しては。ですが、こうやって古きものを大事に残して、壊せなかったから残ったんだって笑い話、私は聞いたんですけど、大事にしてるなど。

そして、2段目の真ん中の写真なんですけど、ここも電柱ないですよ。上手に隠して埋めて、ちゃんと電気入るところですから、こういうところの配慮が大事だななんて思います。

あとすみません。市長からも少しユーモラスなところで顔出しパネルの写真載せさせていただいたんですけど、ちょっと野川まなび館に行く機会がありまして、ちょっとお話ししてる間にこんな盛り上がりがありまして、いろんな形でやってることをPRして、見ていただくということ大事だよなって話をしながら、ちょっと載せさせていただきました。

最後なんですけども、市長、私は観光と交流による地域づくりというものをビジョンとして、大体平成12年ぐらいから学び始め、今に至っております。今回、市長から様々なお話しいただきまして、私にとってはすごくうれしく感じております。ともに観光産業について、交流観光について、観光と文化と交流についてお話しできればと思う次第であります。

教育長、私いつも持ち歩いている、これに載せ

てるんですけど、教育は子供たちの未来に贈るプレゼントと。本当それを私は胸に秘めて常に教育行政についてお話しさせていただいております。ですので、これからも市長、そして教育長、長井の、そして子供たちの未来のためによりしくお願いいたします。私からの質問は以上になります。

○鈴木富美子議長 ここで暫時休憩いたします。
再開は午後3時20分といたします。

午後 3時01分 休憩
午後 3時20分 再開

○鈴木富美子議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木一則議員の質問

○鈴木富美子議長 順位10番、議席番号6番、鈴木一則議員。

(6番鈴木一則議員登壇)

○6番 鈴木一則議員 政新長井の鈴木一則です。今日最後の質問となります。よろしくお願いいたします。

私の質問は1点、能登半島地震から得た教訓を長井市の防災対策にどう生かすかについてです。先ほど竹田陽一議員の質問内容と重複している部分があります。また、答弁をいただいているところもあり、再度になりますが、よろしくお願いいたします。

1月1日の夕刻に発生した大きな地震は、石川県能登半島を中心に未曾有の災害をもたらし

ました。能登半島地震と命名されたこの地震により、家屋の倒壊や土砂災害等により、災害関連死を含め241人の貴い人命が失われました。地盤の隆起や陥没により道路の損壊、電気、通信、上下水道などライフラインが壊滅的に損傷し、海岸近くでは津波の発生により家屋等の流失、損壊もあり、想定を超える震災となりました。お亡くなりになられた方々のご冥福と被災されました皆様へのお見舞いととともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

2011年、平成23年3月11日発生 of 東日本大震災は、沖合30キロメートルで発生し、マグニチュードが9.0、震度は7でした。このたびの地震は、震源のマグニチュード7.6でしたが、地下10キロと浅く、陸地に近い海域の断層が連続してずれたとの分析で、ほぼ直下で震度7の地震が起きました。

東日本大震災では津波により沿岸地域の家屋の流失、倒壊被害が甚大で、2万2,318人の死者・行方不明が出ました。能登半島地震では土砂災害、木造家屋の倒壊被害が大きく、その状況から阪神・淡路大震災に酷似しているとのこと。発生から被害の全容解明は、幹線道路の寸断で2週間後ようやく判明。いまだに十分な支援物資が届かない集落も点在している状況です。

2カ月が経過しても水道、下水道の復旧、倒壊家屋の撤去、仮設住宅の建設などが進まず、被災された方々からは、いつになったら安心して暮らせるのかもはっきりしない、もどかしいと話されています。まさに早期の復旧を願っています。

長井市内にも長井盆地西縁断層帯があります。想定地震の長期評価では、30年以内の発生率が0.02%以下ですが、マグニチュードは7.7と大きな地震が見込まれていますので、今回の地震における国、石川県の救助活動や避難状況の報道から、東日本大震災以上の備えの必要性和災